



夏見台幼稚園・保育園 ニュースレター 2022.6.3 号

夏見台幼稚園・保育園でのこ
わりをニュースレターにまとめます。どうぞご覧ください。
※配信停止の方はメールでどうぞ (info@treponte.jp まで)

〒273-0866 船橋市夏見台 2-16-1 夏見台幼保園

ラジオを聴きとれない若者たち

1. 聞く力とは知力である

「うちの小学生の娘は、ラジオを聞いても理解できない」。

そんなツイートが話題になったと記事にありました。ラジオは災害時の重要な情報源なので、防災対策として一家でラジオを聞いてみてはどうか、と。

現在は動画の時代です。テレビにはテロップがあふれます。ことばは今や「聞く」ものではなく「見る」ものになっています。これは時代の流れです。

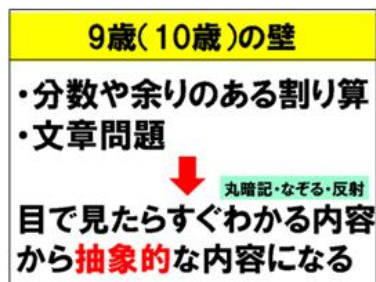
このラジオの件について、私は、「防災」にとどまらない大きな問題があると考えます。聴力は知力と密接な関係にあるからです。

視覚＝具体性

聴覚＝抽象性

聞くのが苦手。これは「ことば」という抽象物を、頭の中で「イメージ」という具体物に置き換える作業といえます。ここで思い出すのが「9歳の壁」です。

9歳の壁とは右図のように、勉強内容の抽象化に対応できない状態のことです。小学校低学年までの学習内容



は、丸暗記やなぞるなどの模倣でなんとか乗り越えられます。しかし3, 4年になると、図形の展開図や文章問題、分数など、一見して理解できない項目が出てきます。自分の頭の中で

「イメージする力」

が育っていないと難しいのです。目に見えないものを、頭の中に描き出す力です。

ところでこの「9歳の壁」という言葉の命名は、東京教育大学附属豊学校長の萩原浅五郎氏といわれます。障害児教育の分野から研究されてきました。

9歳(10歳)の壁

東京教育大学附属豊学校長
だった萩原浅五郎氏が使った
言葉。

**思考力とは「ことば」の
問題である。**

知的障害とは「IQ 75以下」といわれ、論理的思考力が通常の9、10歳レベルにとどまっているものです。

知的障害がなくても、

聴覚にハンデがあると

小学3、4年の学習の理解に困難をきたす

と萩原氏は主張します。

耳から入る情報量のハンデが、抽象的思考力獲得のつまずきになりうるのです。「ことばの力」が弱い、というわけです(参考文献「少年期の壁を越える」加藤直樹著、新日本出版社)。

ことばの力をしっかりと身につけることは物事を抽象的に考えることになり、それは学力に直結すると考えられます。※現在では聴覚障害児への教育実践の発展によりこの問題は改善されつつあります(前掲書より)。

意識して訓練しないと「聞く力」は次第に衰えていくかもしれません。

ところで、幼児教育ではそのあたりがきちんと工夫されています。



「絵」というイメージの力を借りて、子どもの内側に自ら「イメージする力」をステップ・バイ・ステップで育んでいきます。

赤ちゃんには、絵本ではなく「絵カード」。写真のカードや本物に近い絵のカードを見せます。

1歳から、絵本を読み聞かせます。膝に抱いて一人ずつ読んであげます。

2歳で、3～4人一緒に見ることができるようになります。同じものを見て同じ場面で喜び合うなど、共感できる関係ができてきます。

3～5歳では、ほとんど全員かあるいはクラスの半分ずつという単位で行います。

そしてその次が「**素話(すばなし)**」です。「絵」の手助けなしに、耳から入ることばだけで、頭の中にイメージを描きます。

「絵本」→「本(イラストなし)」→「素話」
というステップ

素話は本を使わず、大人が覚えているお話を話します。こうしたステップを踏むことで、人の話を聞いても自分の頭の中でイメージしながら理解できるようになります。

人の話の聞くことが苦手な子どもがいます。「話しことば」という抽象物を、具体的なイメージにできないのです。学校に上がって困らないように、こうしたステップを刻むことは大切でしょう。

2.「遊び」の体系

「遊び」の体系にも、抽象性を育む流れがあります。



子どもの「イメージする力」とは、「**身体性(手で触れるもの)**」→「**具体性(目に見えるもの)**」→「**抽象性(目に見えないもの)**」という流れで発達します。

赤ちゃんは何でも触ります。口の中に入れます。それが赤ちゃんの認識方法です。手で考えている＝**身体性**の時代です。そんなときは手遊びなどの「機能遊び」が中心になります。

次第に、台所で働いているお母さんをイメージする遊び(抽象遊び)や、お散歩で見たスカイツリーをイメージして積み木で再現する遊び(構造遊び)が始まります。目で見えるものをイメージする**具体性**の時代です。

その上で、**抽象性**の求められる遊びが成立します。カードゲームなどのルール遊びです。ルールは目に見えませんが、頭の中でイメージを作り遊ぶのです。

その先にあるのが学校でのお勉強です。勉強は「論理」という目に見えないものを追いかける作業です。絵本とおもちゃとともに、子どもの発達を助ける両輪といえましょう。

以上、聴覚の話から、抽象性を育む幼児教育の体系に触れてきました。とりあえずご家庭では絵本の読み聞かせをおすすめします。耳から得た情報をもとに、頭の中でイメージを描く、そのイメージを動かして楽しんでほしいです。

(終)